



首都大震災

ネット飛び交う震災デマ

拡散 ツイッターで瞬時

テレビもラジオもない時代の関東大震災から八十八年後に起きた東日本大震災。ツイッターなどのソーシャルメディアが安否確認や被災者支援で威力を発揮する一方、多くのデマもネット上を飛び交った。昨年の「東日本大震災

ビッグデータワークシヨッププロジェクト311」に参加した研究者らがツイッター社の提供データを分析した結果からは、現代のデマの傾向と対策が浮かんでくる。
(橋本誠、1面参照)

二〇一一年三月十一日 震災直後にコスモ石油の千葉製油所(千葉県市原市)で起きたコンビナート火災。ツイッターやメールで「有害物質を含んだ雨が降る」というデマが広がった。

貯蔵されていたのは家庭でも使われるLPガス。「燃焼により発生した大気が人体へ及ぼす影響は非常に少ない」と、否定のコメントを正午にHPに載せた。

デマ ドイツ語のデマゴギーの略で、もともとは政治的意図的に流すうそのこと。転じて根拠のないうわさ、でたらめな情報を指す。

東京工業大の高安美佐子准教授らのグループによると、ツイッターでは、出火から二時間ほどたった午後六時ごろ、最初の

注目されるのが、現場に近い浦安市が午後三時三十一分に、デマを打ち消すため発信したツイートだ。市によると、問い

応用したシステムでシミュレーションした佐藤和也さんは「否定ツイートを一時間早く出すことができれば、デマに巻き込まれる人は30%ほど抑えられた」と指摘した。

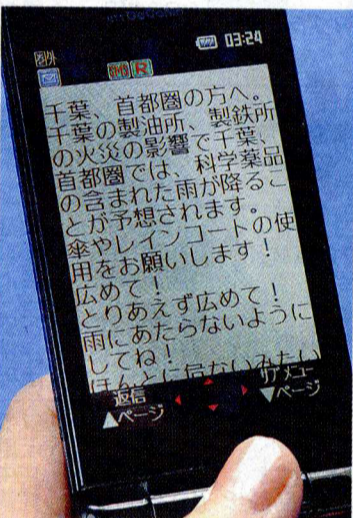
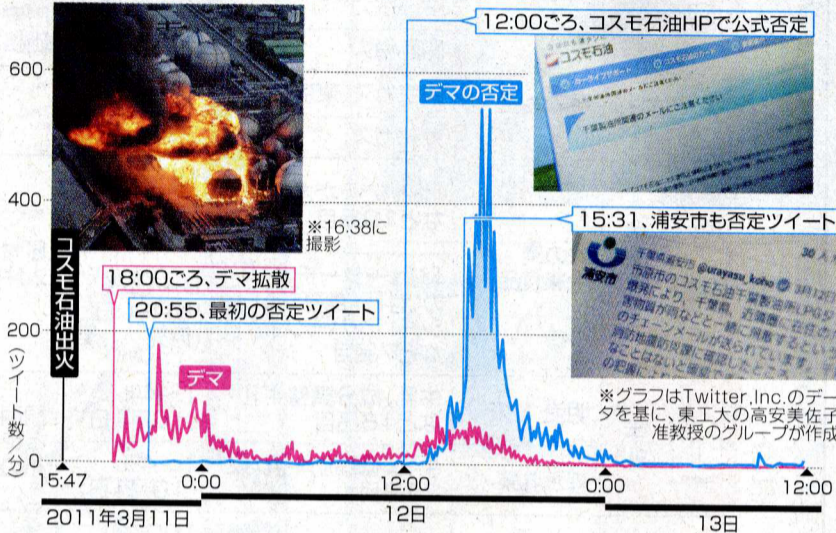
公的機関の否定有効

チェーンメールでも…

一方、このデマは、チェーンメール(複数に転送するよう促す内容の電子メール)でも拡散した。迷惑メール相談センター(東京)には、震災から一カ月余りで千七百六十五件のチェーンメールが転送されたが、コスモ石油火災に関するもの

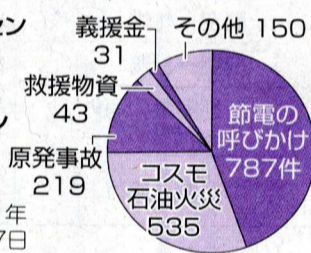
ず自分の所で止め、冷静になってメディアや公的機関のHPで確かめてほしい」と話す。

コスモ石油の火災とツイッターによるデマの拡散・収束



3・11のときにチェーンメールで流されたデマ

迷惑メール相談センターに転送された震災関連のチェーンメール



※転送期間は2011年3月11日~4月17日

善意の感情も加速後押し

災害時のデマは、どんな感情の下で広がるのか。東工大の高安准教授らのグループは、ツイッター社から提供された震災後1週間の約1億8000万ツイートを分析。デマの拡大・収束の動きと照合して、どの形容詞を使った時にデマが広がる傾向があるのかを探った。

不安や不確かさが、うわさを加速させるとする社会心理学の通説通り、多かったのは「心細い」「恐ろしい」といった不安を表す形容詞だった。一方、新たに分かった

東日本大震災直後、デマと同時に広がった形容詞

- | | |
|---------------|---------------|
| 不安な気持ち | 善意の気持ち |
| 心細い | もどかしい |
| 恐ろしい | いたたまれない |
| | 歯がゆい |
| 状態の描写 | 大きさの描写 |
| 危ない | すさまじい |
| 近い | やばい |
| 遠い | |

のは「もどかしい」「いたたまれない」「歯がゆい」など、善意を表す形容詞もデマ拡散を後押し

した可能性があること。救援物資の募集や関西地区への節電要請など、善意の感情で拡大したデマも多いのではないかとこの見方が、分析で裏付けられた。

日本大学の佐野幸恵助手は「不安に加え、『早く知らせなくては』『助けたい』『守りたい』といった善意の心配もデマを拡散させている可能性が高い。特定のキーワードの出現でデマがまん延しやすい状況を予測し、注意報などを出せるのではないかと話す。